

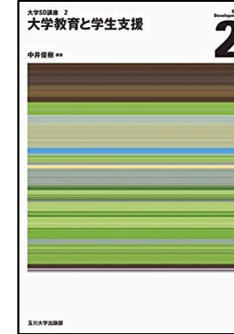
SPODフォーラム2025@徳島大
学
8月29日13：00～15：00

組織的な学習支援について考 えてみよう

清水栄子（愛媛大学） 石田明菜（立命館大学）

講師紹介

清水 栄子（しみず えいこ）



愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 准教授

専門：高等教育、アカデミック・アドバイジング、教職員能力開発

職歴：安田女子大学職員、公立大学協会主幹、阿南工業高専門学校FD高度化推進室特命講師、愛媛大学教育企画室講師、追手門学院大学

学歴：広島大学教育研究科人間科学専攻博士課程修了（博士（教育学））

その他：日本アカデミック・アドバイジング協会会長、NACADA会員

講師紹介

石田 明菜（いしだ あきな）

立命館大学学生部（BKC）特定業務専門職員SSPコーディネーター

臨床心理士・公認心理士として、東邦大学大森病院など医療機関や武蔵野市教育

センターなど教育機関で勤務。カウンセリング・発達検査・学校巡回などの業務を経て、2017年度

より立命館大学でStudent Success Programのコーディネーターとして立ち上げから関わる。

到達目標

1. 高等教育における学習支援の定義とその必要性を、自身の言葉で説明できる。
2. 所属大学における学習支援の体制・取り組み・課題の現状を説明できる。
3. 所属大学の学習支援における組織的な課題と特徴を整理し、言語化できる。
4. 意見交換や活動を通して、参加者同士が学び合う雰囲気づくりに貢献できる。

本セッションの構成

1. 学習支援とは
2. 学習支援が求められる背景
3. 所属大学の学習支援と組織体制
4. 立命館大学 **SSP**の取り組みから
5. 学習支援を行う上での課題
6. まとめ

学習支援の定義

■学生の学習に関わる課題解決の支援を個別および組織的に提供する活動の総称

(清水・中井, 2022)

- ・「学修支援」と「学習支援」

大学設置基準上、大学での学びは「学修」と表記される。これは授業および授業のための事前・事後学習に要する時間を内在した単位修得にかかわる学びとして捉えているためである。本研修では、正課および正課以外の学習に関わる支援と捉え「学習支援」を用いる。

学習支援とは

■目的

- ・ 学生の学習に関わる課題を解決する

■組織

- ・ 学習支援センターなどの専門組織
- ・ 学部・学科

■担当者

- ・ 学習支援センターなどの専門組織の教職員
- ・ 学部・学科の教員
- ・ 教務・学生支援系の職員、キャリア支援系の職員
- ・ ピアサポーター

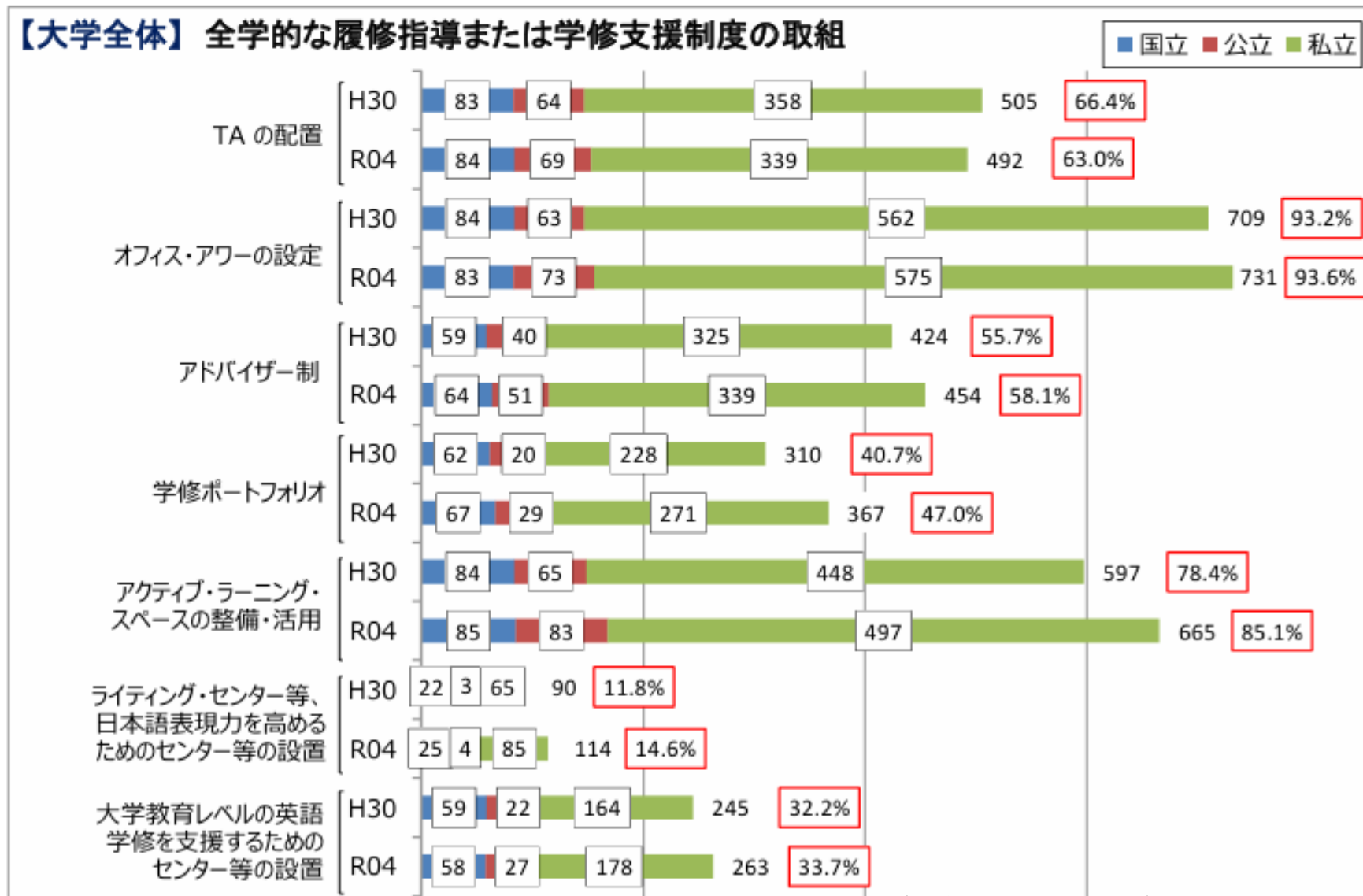
■対象

- ・ 全ての学生

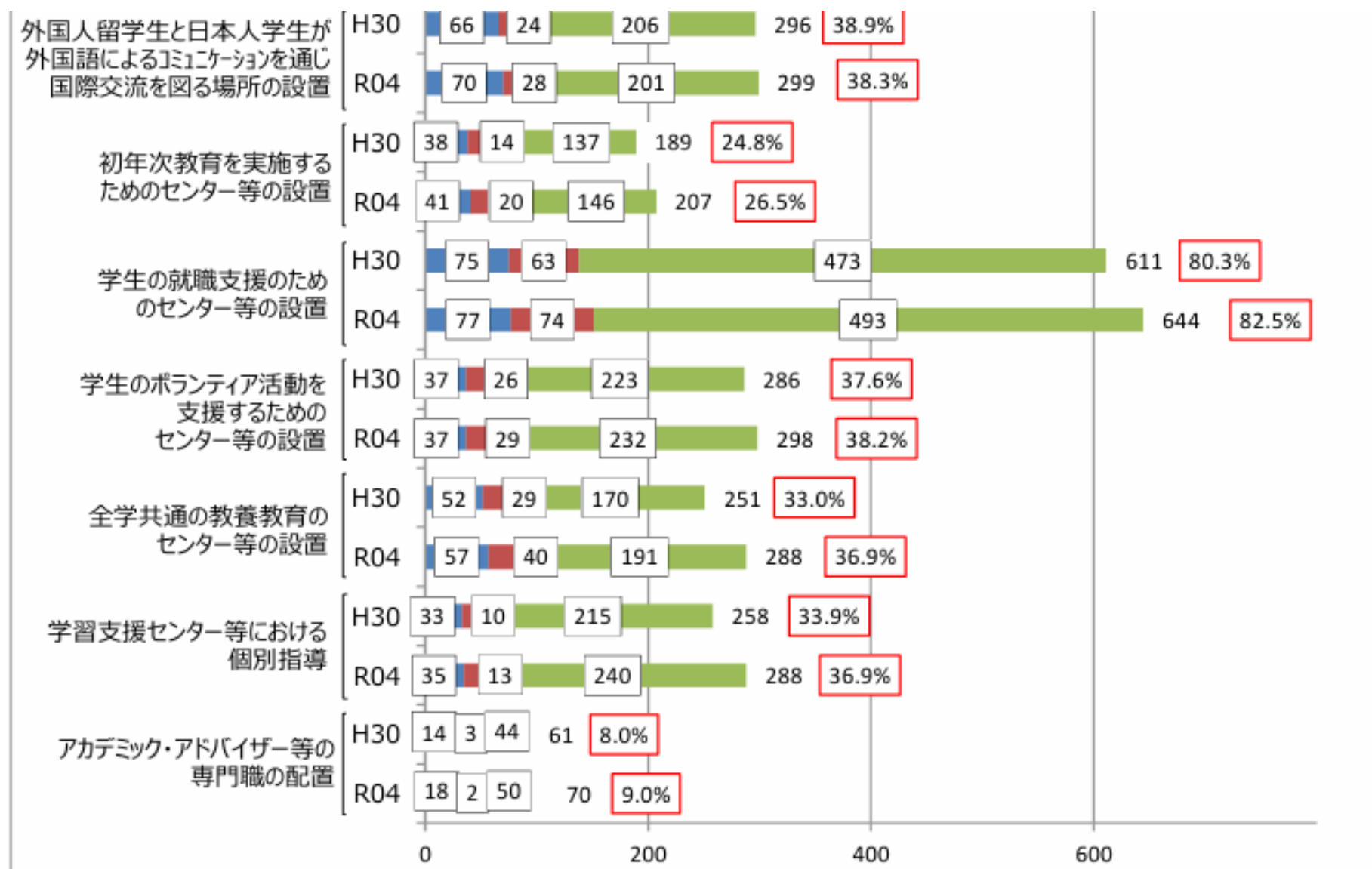
学習支援の意義

学生にとっての意義	大学にとっての意義
■主体的な学びができるようになる ■自身の課題・目標を明確にし、解決・達成できる ■対人関係能力、問題解決能力を身につけることができる ■必要な情報を得ることができる ■大学への帰属意識が高まる ■自身の学習スタイルを築くことができる ■大学生活を円滑に送ることができる(卒業できる)	■学生に安全安心な環境を提供する ■教育目標を達成できる ■学生に直接アプローチすることができ、大学組織にとって必要な情報を把握できる ■学生の休退学を予防できる ■組織の活性化につなげることができる ■関係部署の連携を促すことができる ■学内を活性化できる

全学的な履修指導や学修支援制度の取組



(文部科学省, 2024)



・各項目に回答した大学を集計。

グループワーク 1

自己紹介

■自己紹介

- ・ 所属
- ・ 氏名
- ・ 本日の参加理由

学習支援が求められる背景

■大学の使命

- ・ 学生の自律的な学習を促す環境を提供する
- ・ 社会に求められる人材を育成する

■教育の質保証

- ・ 大学の設定した教育目標（DP）の達成を目指す

■学習者中心の教育

- ・ 「学修者本位」の教育
- ・ 個別最適な学び

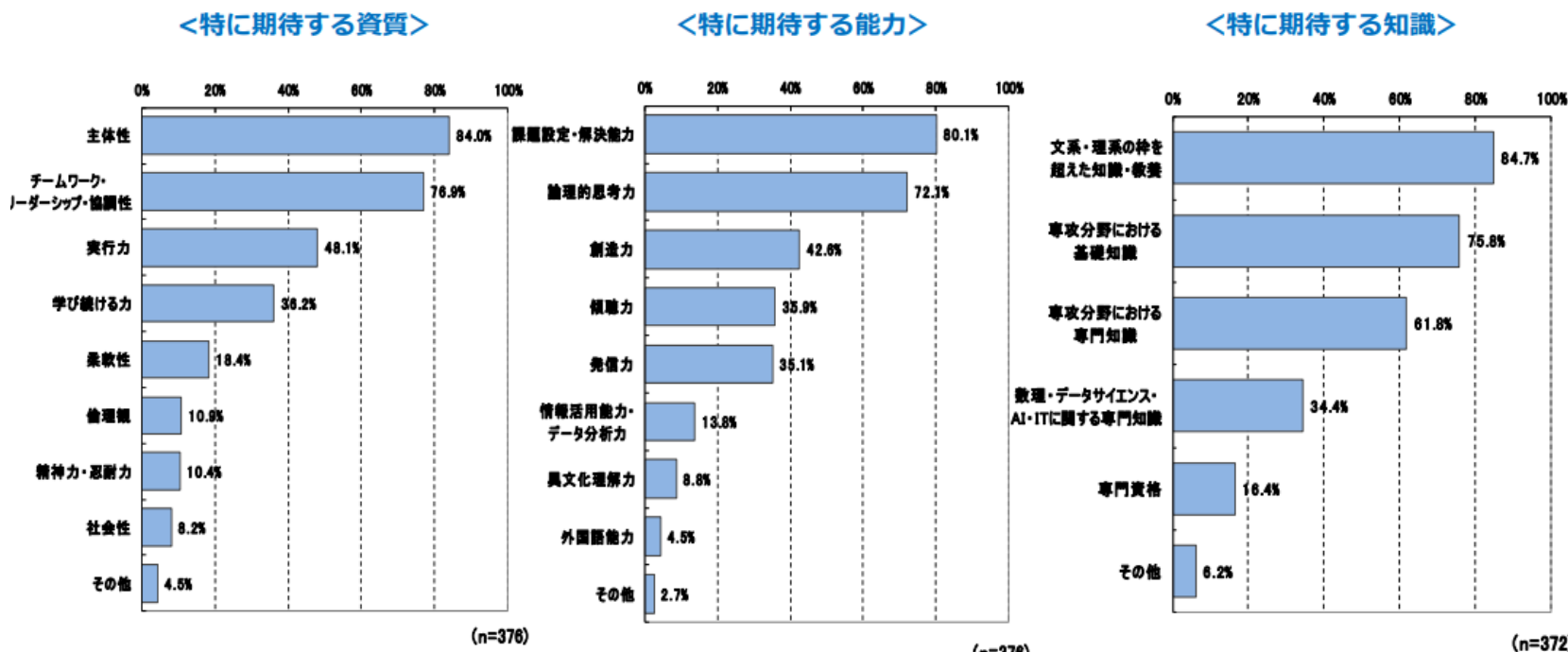
■大学進学率の上昇に伴うユニバーサル化

■学生のニーズ

求められる大卒者の資質・能力・知識

1. 採用の観点から、大卒者に特に期待する資質・能力・知識

- 特に期待する資質として、回答企業の約8割が「主体性」、「チームワーク・リーダーシップ・協調性」を挙げた。変化の激しい人生100年時代を迎え、「学び続ける力」と回答した企業が4割近い。
- 特に期待する能力として、「課題設定・解決能力」、「論理的思考力」、「創造力」が上位。いずれも Society 5.0において求められる能力として、産学協議会で産学間で認識が一致したもの。
- 特に期待する知識として、「文系・理系の枠を超えた知識・教養」が最も多く、リベラルアーツ教育や文理融合教育を重視した教育の実践が重要。専門教育の重要性も認識。



日本経済団体連合会(2022)

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)【概要】

平成30年11月26日
中央教育審議会

I. 2040年の展望と高等教育が目指すべき姿 … 学修者本位の教育への転換 …

● 必要とされる人材像と高等教育が目指すべき姿

予測不可能な時代 を生きる人材像	- 普遍的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身に付けていく - 時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材
学修者本位の 教育への転換	「何を学び、身に付けることができたのか」+個々人の学修成果の可視化(個々の教員の教育手法や研究を中心にシステムを構築する教育からの脱却)

● 高等教育と社会の関係

「知識の共通基盤」	● 教育と研究を通じて、新たな社会・経済システムを提案、成果を還元
研究力の強化	● 多様で卓越した「知」はイノベーションの創出や科学技術の発展にも寄与
産業界との協力・連携	● 雇用の在り方や働き方改革と高等教育が提供する学びのマッチング
地域への貢献	● 「個人の価値観を尊重する生活環境を提供できる社会」に貢献

2040年頃の社会変化
国連・SDGs「全ての人が平和と豊かさを享受できる社会」
Society5.0 第4次産業革命 人生100年時代 グローバル化 地方創生

II. 教育研究体制 … 多様性と柔軟性の確保 …

多様な学生

- 18歳で入学する日本人を主な対象として想定する従来のモデルから脱却し、社会人や留学生を積極的に受け入れる体質転換
- リカレント教育、留学生交流の推進、高等教育の国際展開

多様な教員

- 実務家、若手、女性、外国籍などの様々な人材を登用できる仕組みの在り方の検討
- 教員が不断に多様な教育研究活動を行うための仕組みや環境整備(研修、業績評価等)

多様で柔軟な教育プログラム

- 文理横断・学修の幅を広げる教育、時代の変化に応じた迅速かつ柔軟なプログラム編成
- 学位プログラムを中心とした大学制度、複数の大学等の人的・物的資源の共有、ICTを活用した教育の促進

多様性を受け止める柔軟なガバナンス等

- 各大学のマネジメント機能や経営力を強化し、大学等の連携・統合を円滑に進められる仕組みの検討
- 国立大学の一法人複数大学制の導入、経営改善に向けた指導強化・撤退を含む早期の経営判断を促す指導、国公立の枠組みを越えて、各大学の「強み」を活かした連携を可能とする「大学等連携推進法人(仮称)」制度の導入、学外理事の登用

大学の多様な「強み」の強化

- 人材養成の観点から各機関の「強み」や「特色」をより明確化し、更に伸長

III. 教育の質の保証と情報公表 … 「学び」の質保証の再構築 …

- 全学的な教学マネジメントの確立
 - 各大学の教学面での改善・改革に資する取組に係る指針の作成
- 学修成果の可視化と情報公表の促進
 - 単位や学位の取得状況、学生の成長実感・満足度、学修に対する意欲等の情報
 - 教育成果や大学教育の質に関する情報の把握・公表の義務付け
 - 全国的な学生調査や大学調査により整理・比較・一覧化
- 設置基準の見直し(定員管理、教育手法、施設設備等について、時代の変化や情報技術、教育研究の進展等を踏まえた抜本的な見直し)
- 認証評価制度の充実(法令違反等に対する厳格な対応)

教育の質保証システムの確立

IV. 18歳人口の減少を踏まえた高等教育機関の規模や地域配置 … あらゆる世代が学ぶ「知の基盤」 …

高等教育機関への進学者数とそれを踏まえた規模

- 将来の社会変化を見据えて、社会人、留学生を含めた「多様な価値観が集まるキャンパス」の実現
- 学生の可能性を伸ばす教育改革のための適正な規模を検討し、教育の質を保証できない機関へ厳しい評価

【参考】2040年の推計

- 18歳人口: 120万人(2017)
 - 88万人(現在の74%の規模)
- 大学進学者数: 63万人(2017)
 - 51万人(現在の80%の規模)

地域における高等教育

- 複数の高等教育機関と地方公共団体、産業界が各地域における将来像の議論や具体的な連携・交流等の方策について議論する体制として「地域連携プラットフォーム(仮称)」を構築

国公私の役割

- 歴史的経緯と、再整理された役割を踏まえ、地域における高等教育の在り方を再構築し、高等教育の発展に国公私全体で取り組む
- 国立大学の果たす役割と必要な分野・規模に関する一定の方向性を検討



V. 各高等教育機関の役割等 … 多様な機関による多様な教育の提供 …

- 各学校種(大学、専門職大学・専門職短期大学、短期大学、高等専門学校、専門学校、大学院)における特有の課題の検討
- 転入学や編入学などの各高等教育機関の間の接続を含めた流動性を高め、より多様なキャリアパスを実現

VI. 高等教育を支える投資 … コストの可視化とあらゆるセクターからの支援の拡充 …

- 国力の源である高等教育には、引き続き、公的支援の充実が必要
- 社会のあらゆるセクターが経済的効果を含めた効果享受することを踏まえた民間からの投資や社会からの寄附等の支援も重要(財源の多様化)
- 教育・研究コストの可視化
- 高等教育全体の社会的・経済的効果を社会へ提示

- 公的支援も含めた社会の負担への理解を促進
- 必要な投資を得られる機運の醸成

(中央教育審議会, 2018)

学生の大学教育に対する考え

- 大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考えに近いですか。

①単位取得

【A】あまり興味がなくても、単位を楽にとれる授業がよい

【B】単位をとるのが難しくても、自分の興味のある授業がよい

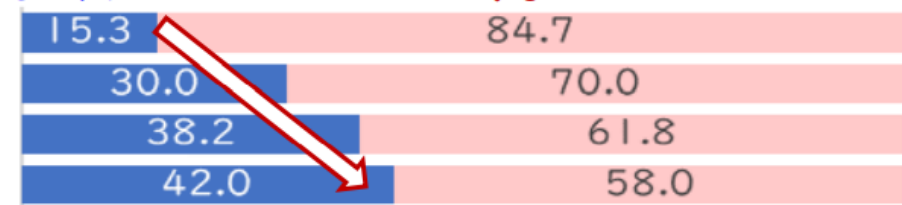


⑧学生生活

(%)

【A】学生生活については、大学の教員が指導・支援するほうがよい

【B】学生生活については、学生の自主性に任せるほうがよい



⑥学習方法

【A】大学での学習の方法は、大学の授業で指導を受けるのがよい

【B】大学での学習の方法は、学生が自分で工夫するのがよい



⑩責任

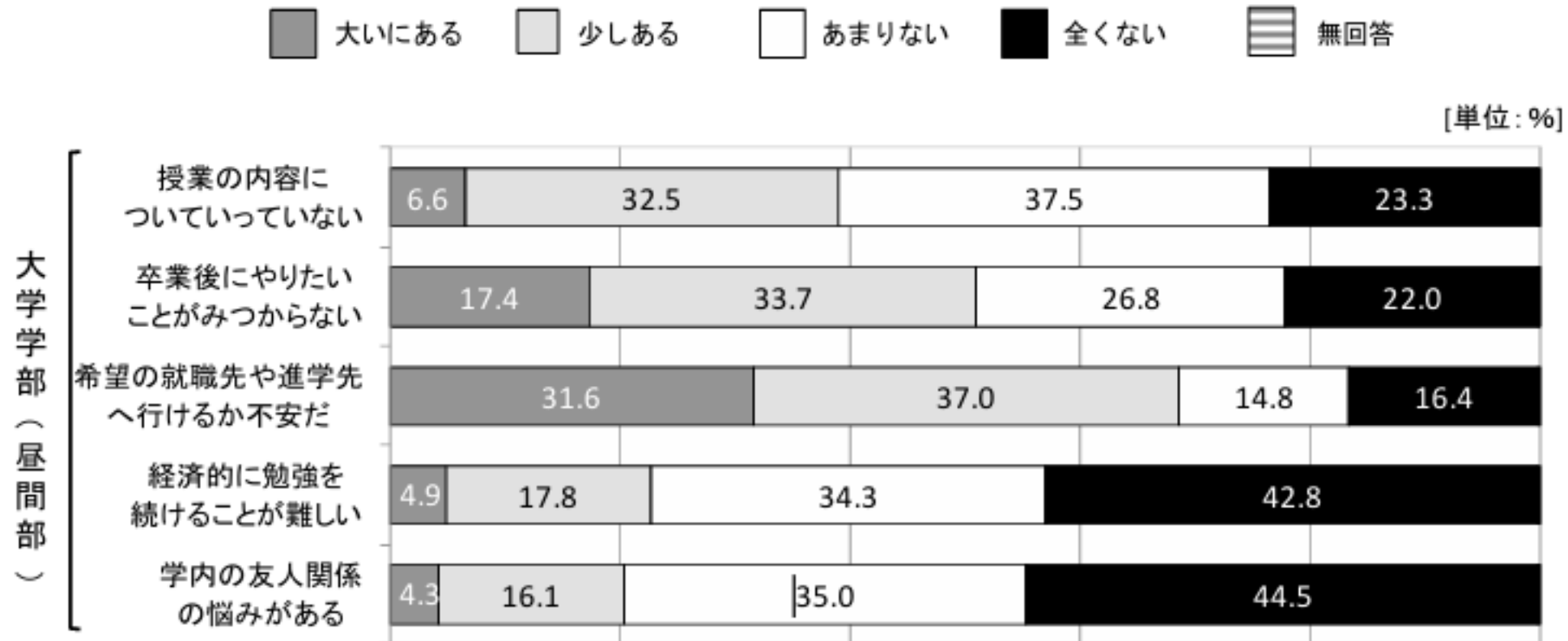
【A】学生が知識や技能を身につけられるかどうかは、大学の教育の責任だ

【B】学生が知識や技能を身につけられるかどうかは、学生自身の責任だ



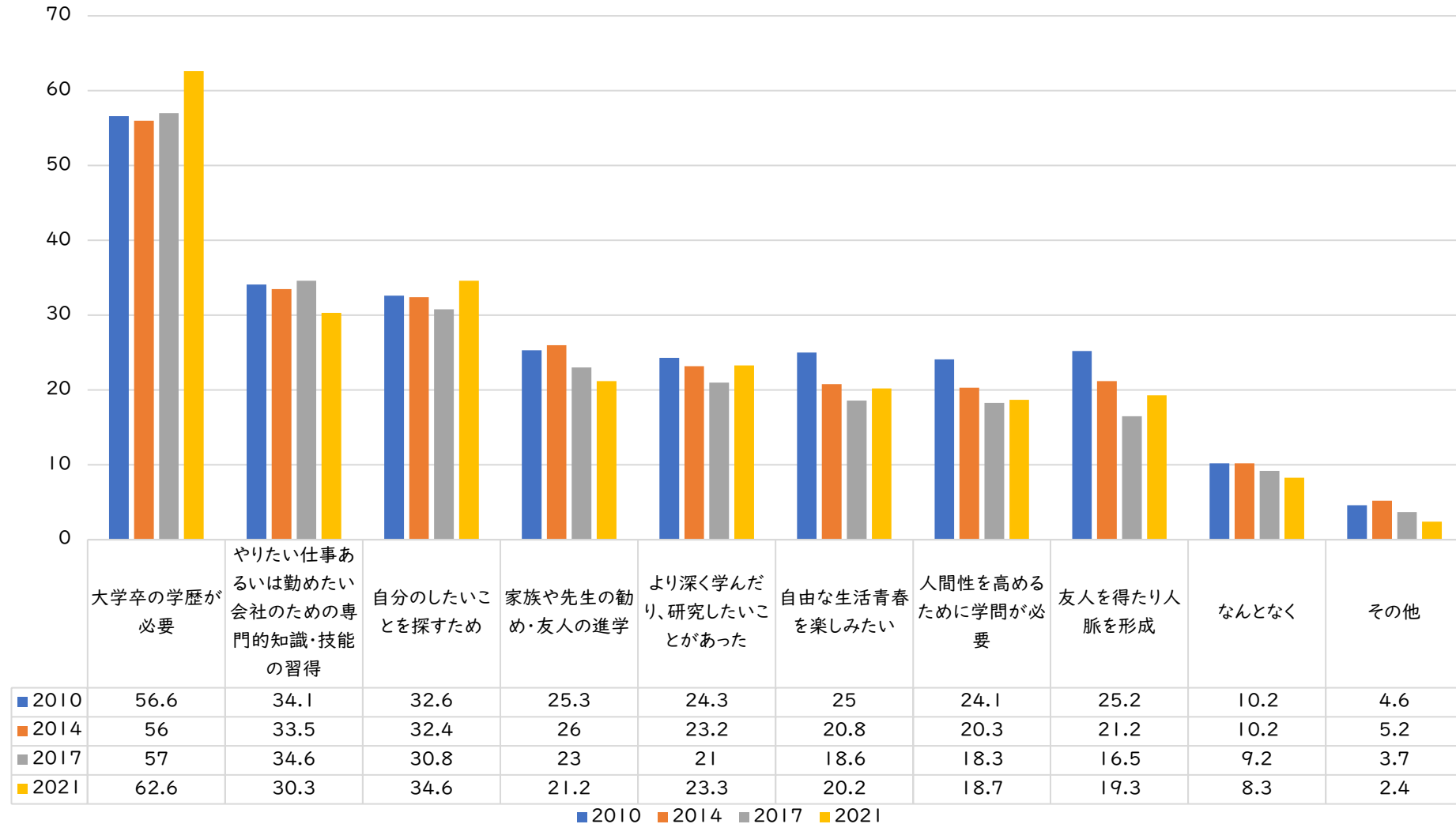
(ベネッセ教育総合研究所, 2022)

学生の不安・悩み



（日本学生支援機構, 2024）

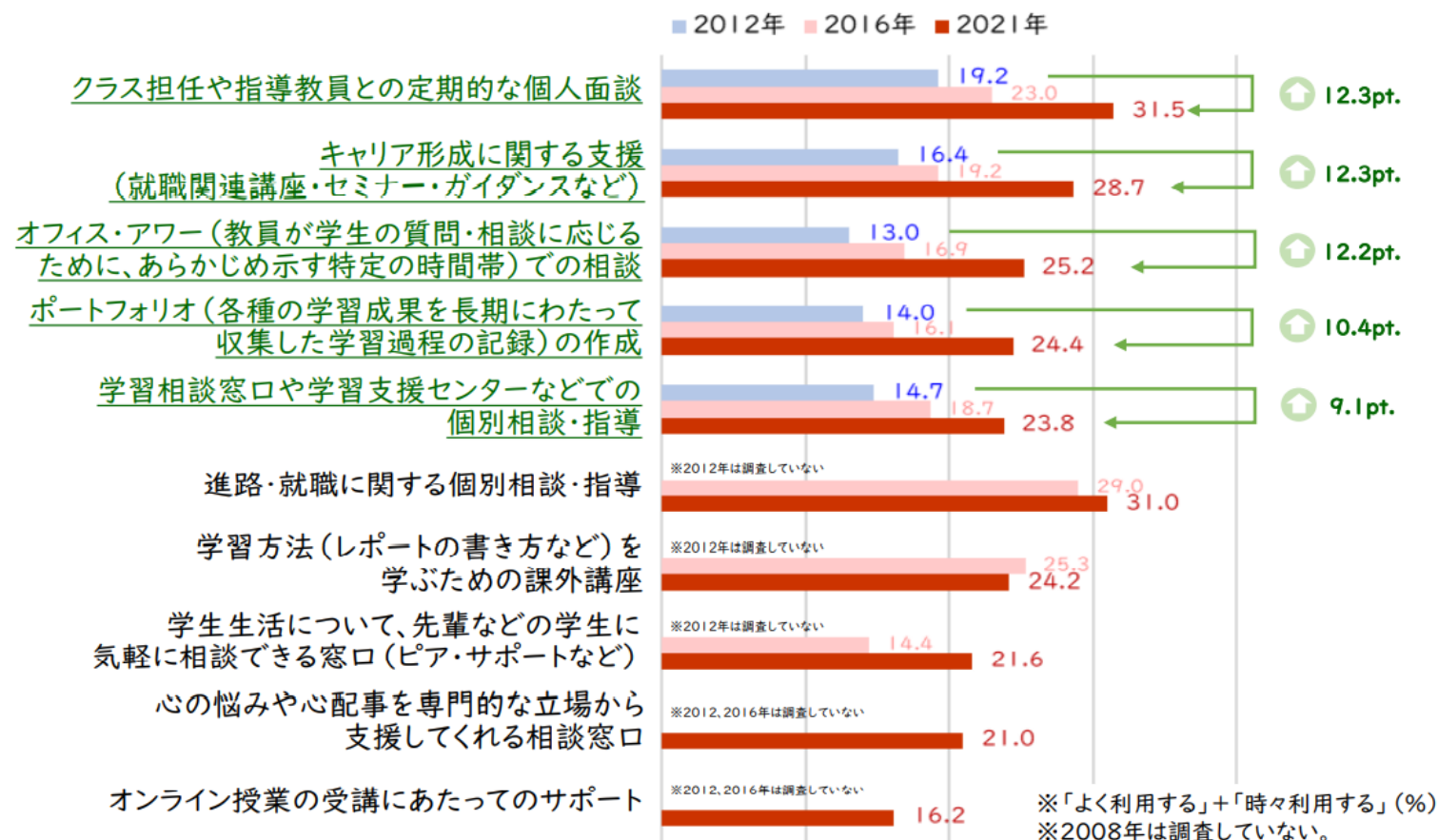
大学進学目的



(日本私立大学連盟, 2018, 2022を基に作成)

学生の支援環境の利用状況

◆あなたは、次のような学生に対する支援環境をどの程度利用していますか。



(ベネッセ教育総合研究所, 2022)

組織体制

■学部・学科

- 学部・学科に所属する教員や学生が支援を担当する（例：クラス担任制、新学期オリエンテーションなど）

■専門組織

- ある支援に特化した専門組織に所属する教職員や学生が支援を担当する（例：学習支援センター、ライティングセンターなど）

■連携・協働型

- 学部・学科と専門組織、専門組織同士が連携・協働して学生の支援を担当する（例：履修相談、レポートの書き方講座など）

愛媛大学における学習支援の取組

プログラム／取組	概要
講習会	新入生、学部生（全学年）、学部生（卒業準備）など、対象者別の各種講習会を開催しています。 ○レポート・卒論のための資料集め講座 「本がどこにあるのかわからない!」「雑誌論文はどう探せばいい?」「電子ジャーナルって何?」等々の疑問にお答えします。卒論準備前に一度いかがでしょうか。個人・ゼミ・授業でご利用ください。 ○図書館入門講座 中央図書館の基本的な使い方をご紹介します。愛媛大学図書館を初めて利用する方向けのガイダンスです。 ○大学院生のための図書館ガイダンス 図書館をとことん使って効率的に資料を集めてみませんか? 学外からデータベースにアクセスする方法等もご紹介します。(担当部署:図書館)
J-support (日本語ボランティア)	留学生の学習支援・日本語科目授業の補助・イベント支援等の活動を通じ、留学生との交流を行います。J-support登録をして、授業の空き時間などに留学生の会話練習サポートなど、協力してくれませんか? (担当部署:国際連携課)
English Hour	留学生と英語で話す機会です。 学生同士、リラックスした雰囲気の中で英語の学習や国際交流ができます。 (担当部署:国際連携課)
Study International Fair	留学経験のある先輩がこれから留学をめざす学生に、留学体験とその魅力をパネル式で紹介する“Study International Fair”を開催しています。 留学に興味のある方はぜひお越しください。先輩から直接体験談が聞けるだけでなく、疑問点を尋ねたり、相談できる絶好の機会です。また、留学生による自国紹介コーナーもあります。(担当部署:国際連携課)

愛媛大学における学習支援の取組

プログラム／取組	概要
学生生活担当教員	一人一人の学生の状況を把握し、必要に応じて履修指導を行い、学生生活について助言を与えられるよう、学生生活担当教員の制度を設けています。皆さんが充実した学生生活が送れるようにセーフティネットとしてのサポートを心掛けています。
各種相談窓口	学生の皆さんが、学生生活、課外活動、友人関係、健康管理、履修方法、進路などで直面する疑問・不安・悩みに対して、気軽に相談できるよう様々な相談窓口を設けています。相談に関する内容は、秘密が厳守されますので、気軽に相談してください。
学習支援ルーム	学習支援ルームでは、大学院生のアドバイザー「スタディ・アドバイザー」と教員のアドバイザー「学習支援アドバイザー」が学生一人ひとりに寄り添いながら、学習に関する課題や悩みの解決に向けて丁寧にサポートする。個別対応のほか、セミナーなどの開催も実施している。 スタディ・アドバイザー：「英語」、「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」などの科目やライティングについてマンツーマンでサポートします。相談受付科目は、曜日、時間、アドバイザーによって変わります。 学習支援アドバイザー：学生の皆さんが学習や将来の目標を見つけ、その実現に向けた計画を立てることをサポートします。また、必要に応じて、その計画に基づいて行動するためのアドバイスも行います。面談では、学習に関する悩みや課題を一緒に話し合い、具体的な解決策を見つけ、行動に移すためのサポートもします。
愛大学習チャンネル	愛媛大学教育企画室が運営するYouTube学習支援チャンネルです。学生の皆さんの普段の授業や自主学習で活用できる大学での「学び」を支援する動画教材を提供しています。

愛媛大学の学習支援

■学部・学科

- 学生生活担当教員

■専門組織

- 学習支援ルーム
- 学習支援アドバイザー

■連携・協働

- 各種相談窓口、図書館×教育企画室

学習支援プログラムの特徴

• 全員対象	⇔	一部学生対象 (二一
ズ・課題への対応)		
• 強制参加	⇔	任意参加
• 専門組織	⇔	学部・学科
• オンライン	⇔	対面
• 内製	⇔	外部委託
• 教職員	⇔	学生

グループワーク 2

所属大学の組織的な学習支援の紹介

所属大学の学習支援に関わる取組やプログラムについてグループ内で紹介してください。

【予告】 個人ワーク

所属大学の組織的な学習支援の課題

- 所属大学で学習支援に関わる取組やプログラムを提供する上で、どのような課題がありますか。
- 課題に対して、どのような対策をしていますか？
 - ・属人的な支援になっていないか
 - ・入口が複数あるか、分かりやすいか
 - ・情報共有・連携の仕組みがあるか
 - ・特定の学生層に届いていない部分がないか

【予告】 個人ワーク 所属大学の組織的な学習支援の課題

■所属大学で学習支援に関わる取組やプログラムを提供する上で、どのような課題がありますか。

■課題に対して、どのような対策をしていますか？

- ・属人的な支援になっていないか
- ・入口が複数あるか、分かりやすいか
- ・情報共有・連携の仕組みがあるか
- ・特定の学生層に届いていない部分がないか



組織的な学習支援について考えてみよう ～立命館大学 SSPの取り組みから～

立命館大学学生部 Student Success Program(SSP)
学生支援コーディネーター 石田明菜



1. 立命館大学の概要と特徴
2. Student Success Programの設立経緯と設立部署
3. Student Success Program(SSP)について
4. SSPにおける課題の変遷



立命館大学の概要・特徴

衣笠キャンパス(京都)



学部:法、産業社会、文学、国際関係
▶学生数:13,075人

びわこ・くさつキャンパス(滋賀)



学部:経済、理工、薬、生命科学、
スポーツ健康科学、食マネジメント
▶学生数:12,270人

大阪いばらきキャンパス(大阪)



学部:経営、政策科学、総合心理、
グローバル教養、情報理工学部、映像
▶学生数:9760人

朱雀
キャンパス
法務・教職
研究科
330人

学生や大学での学びの特徴

- 全国から集まる学生

近畿圏出身者51.6%、近畿圏外出身者47.8%

- 多様な文化を持った学生

70か国から2,824名の留学生

- 「学び」や「経験」の選択肢が豊富

多様な正課外プログラムと400団体以上のクラブ・サークル等があり、正課外活動に取り組む学生が多い

主体的な「学び」や「成長」を促進するしくみ

多様な学びや正課と正課外の両立など大学生活を充実するためのサポート

- Student Success Program(SSP)2017年～

SSPの目的 「自立した学習者」の育成

学生「一人ひとり」が正課と課外すべての学生生活を通じて、学びの主体として「自立」し、最大限の「成長」を遂げられるようになるための学生支援。

大学から

R2020計画

- ▶ 包括的学生支援体制の整備
- ▶ 学びの立命館モデルの構築
 - 課題を設定し主体的に学ぶ力
 - Borderを超えてチャレンジする力
 - 集団、個の視点からの支援
 - 学びの質保証
 - 正課外・課外自主活動の活性化

学生支援の現場から

明確な困りごとはないが 支援をのぞむ層の拡大

何に困っているかわかっていない／高校と大学の違いになじめない／もっと成長したい／もっと充実した学生生活を送りたい／正課と課外の両立がむずかしい／支援を自ら求められない…

どこに相談していいのかわからない学生の存在

学生から

正課と課外の両立

- ▶ アスリート学生からの声
 - 「学業ガイドライン」
 - 「入学前教育」
 - 「立命館スポーツ宣言」
 - 「学生アスリートの誓い」
- ▶ 全学協議会での学生要求
 - ①正課と課外の両立困難学生への支援
 - ②クラブ・サークル等の組織マネジメントの支援

学習支援を具体化するプログラムの立ち上げ(対象は課外自主活動団体の学生)を全学に提起

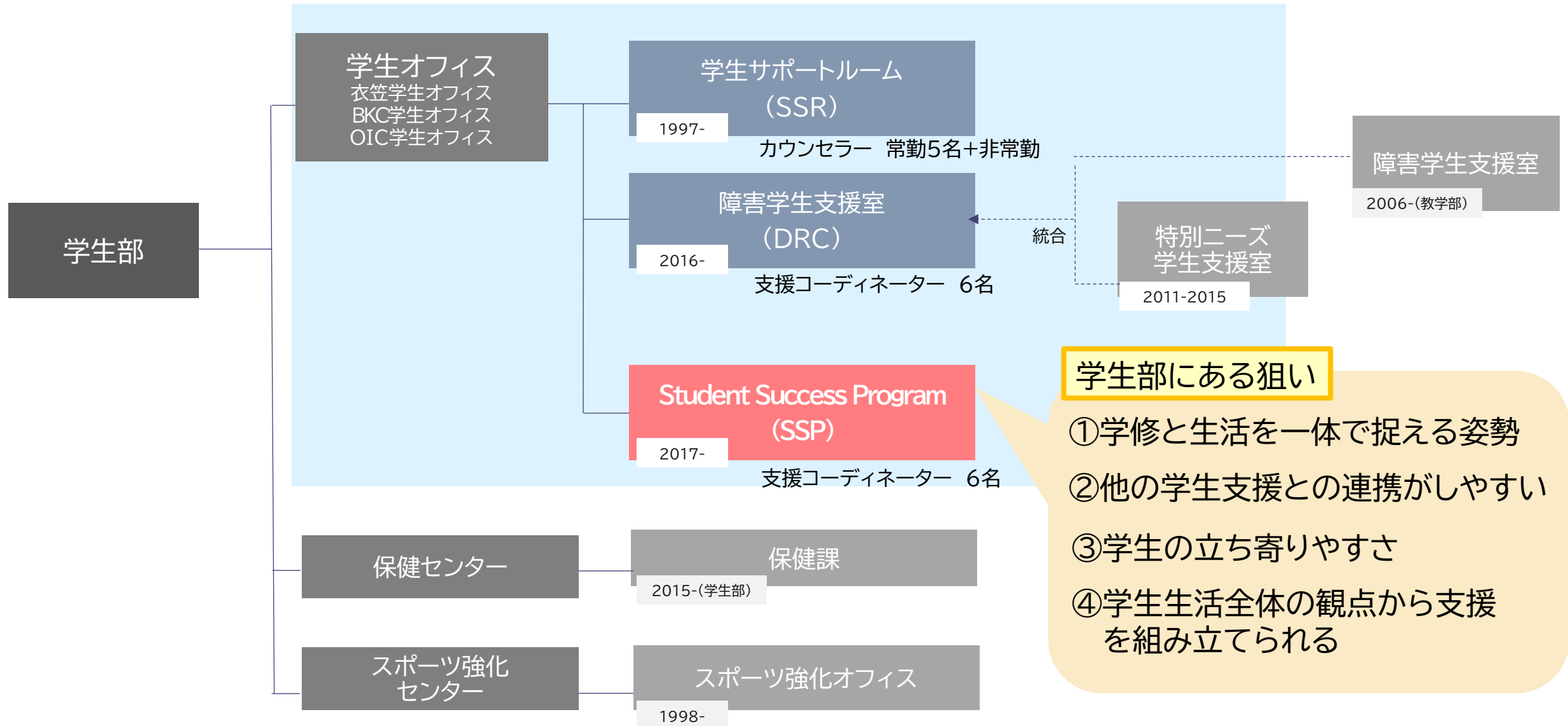
様々な学生の「困りごと」に共通する学習面の課題(主にStudent Skills)への対応の必要性

全学生を対象とした学習支援として構築



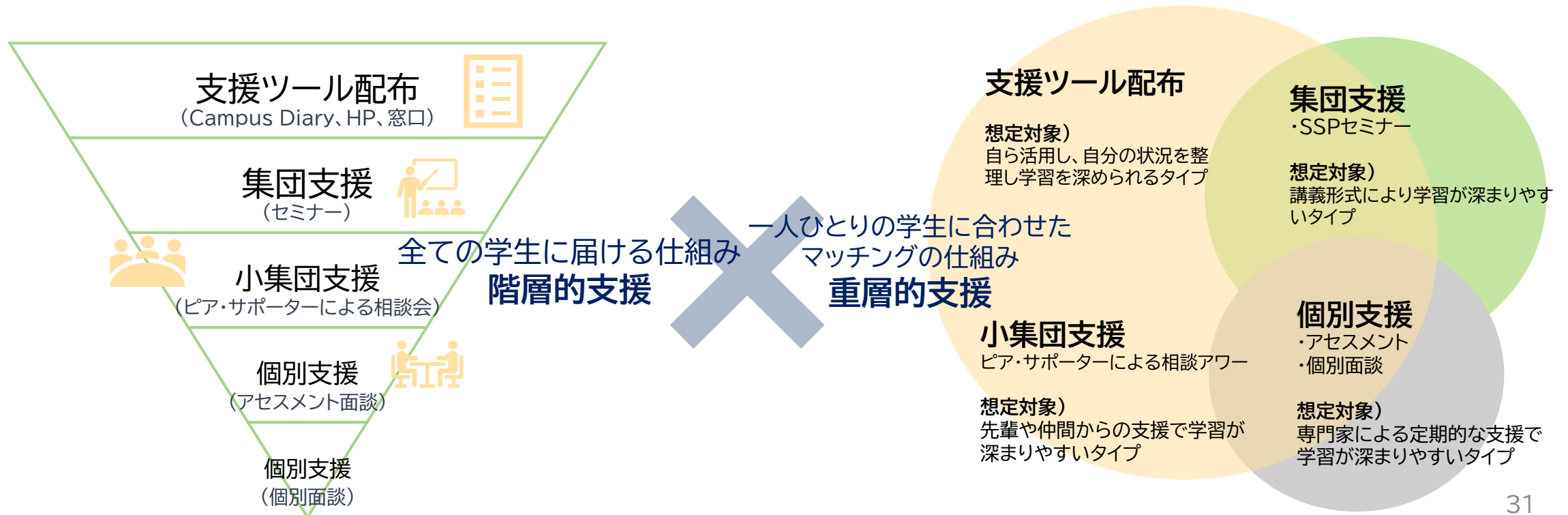
Student Success Program

StudentSuccessProgramが学生部にあること



■支援内容

- Student Successを意識し、大学生活を送るうえで必要な自己管理能力となる Student Skillsの支援を中心に扱う(正課に直接関連する Academic Skillsの支援も含む)



Student Successとは 定義と寄与する要因

定義： Student Successは米国の高等教育分野において注目されてきた概念であり, 古くは成績や卒業, 学位の取得など学業面での成功を意味していたが、近年は「**学業的達成・教育目的に沿った活動への参加・満足度・期待される知識や技能, 能力の習得・継続性・教育的目的の達成・卒業後の業績**」と再定義

(例:Kuh et al., 2006)



学生一人ひとりに独自の Student Successが存在する前提で、
学業的達成という短期的な成功だけでなく、
将来を見据えた自己理解の深化や全般的な成長実感といった長期的な成功。

@山田剛史・木原宏子・深谷麻未・茅根未央・渡邊あい子・岸岡奈津子
「Student Successをどう捉え、どのように関与するか：
学修支援専門職員へのフォーカスグループインタビューを通じた探索的検討
（『日本アカデミック・アドバイジング協会 第3回年次大会発表要旨集13』）」



SSPが支援を行うSkillsについて

Student Skills

大学生活を送る上で必要な自己管理能力

学修状況の管理

スケジュール(時間)・タスク管理

情報収集と整理

大学生活における目標の設定

大学での学びへの動機付け
(卒業までの見通しやプランニング)

⋮

SSPの主だった支援の範疇

Academic Skills

正課に直接的に関連する能力

ノートの取り方

文献資料の探し方

読解・文献講読の方法

レポートの書き方

プレゼンテーションの方法

⋮

自己調整学習・SSサイクルをまわすためにも
Student Skillsが必要

3

転換期(2021-2024)

階層的×重層的支援システムの見直し

2020年～コロナ禍へ 影響による大学・学生のスタイルの変化

2

浸透期(2019-2021)

個別支援の需要の増加、
連携の難しさ

2019年 各キャンパスコーディネーター2名体制へ

1

立ち上げ期(2017-2019)

SSの概念やSSP支援イメージの
共有の難しさ

2017年 Student SuccessProgram設立

前例のない支援機関でもあり…

SS定義の曖昧さ

Student Success」という言葉自体が抽象的であり、具体的な定義が定まっておらず

ある教員は成績向上をイメージする一方で、別の教員は課外活動への参加や人間関係の構築など、解釈にばらつき

SSPの支援イメージの共有不足

ある教職員は、SSPを単なる学習支援プログラムと捉え、他の教職員はより包括的な支援を期待するなどズレがあり

どのような支援者が関わっているのかも周知が不十分

教職員の意識改革の遅れ

従来の教育や学生指導のあり方に固執する教職員も少なくな…

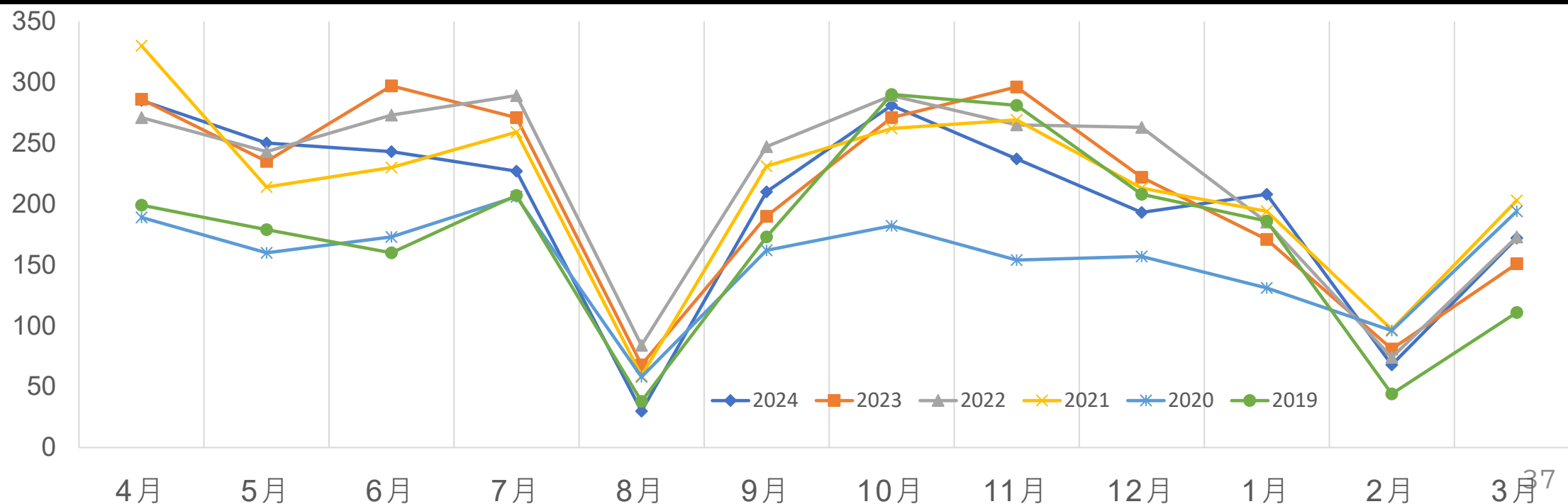
SSPの導入は、教職員の意識改革を伴うものだったが、その必要性が十分に理解されず、抵抗感を示す教職員も

対策

- ・会議での周知(事例を紹介し、具体的な支援内容を複数紹介)
- ・学部懇談会の実施(全学部)
- ・学習会の実施(対象:全教職員)
- ・FD研修の実施
- ・実際のケースを通じて教員や職員とのやり取りを密に行う

個別支援の需要増加、連携の難しさ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
2024	285	250	243	227	30	210	281	237	193	208	68	172	2404	0.94
2023	286	235	297	271	68	190	271	296	222	171	81	151	2539	0.96
2022	271	243	273	289	84	247	289	265	263	185	74	173	2656	1.04
2021	330	214	230	259	59	231	262	269	213	194	97	203	2561	1.38
2020	189	160	173	206	58	162	182	154	157	131	96	194	1862	0.89
2019	199	179	160	207	38	173	290	281	208	186	44	111	2076	1.92



なぜSSPの利用者が増加したのか？

要因①「学習支援」と名前がつかない

「勉強ができない学生が行く」などマイナスイメージだけではなく、抵抗が少ない

要因②客観的な事実をもとに話ができる

(単位習得率・成績・課題提出・出欠状況などの事実をベースに)

要因③「単位修得」「卒業」など誰もが通る必要な要素を取り扱っている

要因④オーダーメイド型で学生のニーズに合っている

(コスパ・タイパ思考&他者評価に敏感)



他の支援機関も対応学生数が増加しており、対応できないという組織的な課題も



様々な部署で対応困難なケースなどの最終的な「受け皿」に。

浸透期の課題に対しての対策は？

個別支援に対しての対策を検討

- ・面談回数や面談時間制限ルールの導入
- ・グループ支援を提供する
- ・どのキャンパスのCoでも対応できるようにシステム改革

⇒個別最適化から考え、学生の選択肢にそぐわない？

集団支援に対しての対策

- ・対面実施していたセミナーをZoomやウェビナーで配信
その内容を反映した動画も作成、配信

⇒コロナ禍はオンデマンドの参加や視聴数が伸びたが、その後はほとんど再生率が上がらず…



現在も引き続き、限られたコーディネーター数で対象者となる学生に対応していくかを検討中

階層的×重層的支援スタイルの見直しへ



SSPの取り扱う
相談内容の多様性

学習に関する相談

キャリアや
目標に関する相談

学生生活に関する相談



学生の質の変化

生活・行動様式
の変化

多岐に渡る
入試スタイル

高校までの教育
環境の多様化

個別支援件数の増加、
利用者の偏り

支援継続が困難

ピア・サポーターの育成

コーディネーター機能

学部懇談、FD研修

入学前プログラムや
出張セミナーなどの支援

育成制度
の不在

不安定な
雇用形態

コーディネーター
の負担増加



多様な支援内容



専門家の不足

組織的な課題

SSPのニーズがあり続けるのか？ 個別支援件数の増加、利用者の偏り

- 要因①「学習支援」と名前がつかない「勉強ができない学生が行く」などマイナスイメージだけではなく、抵抗が少ない
- 要因②客観的な事実をもとに話ができる(単位習得率・成績・課題提出・出欠状況などの事実をベースに)
- 要因③「単位修得」「卒業」など誰もが通る必要な要素を取り扱っている
- 要因④オーダーメイド型で学生のニーズに合っている(コスパ・タイパ思考&?)

他の支援機関も対応学生数が増加しており、対応できないという組織的な課題も

様々な部署で対応困難なケースなどの最終的な「受け皿」に。

コロナ禍を経て…

- 要因⑤オンライン技術の定着
- 要因⑥情報共有のスタイルもデジタル化・オンライン化し主体的な情報収集がもとめられた
- 要因⑦授業スタイルや評価方法も多様化し、学生同士の支えあい、課題解決が難しくなった
- 要因⑧就活やインターン研修などが早期化し、自身についての理解が求められる

転換期の課題に対しての対策は？

- ・各学部への出張セミナーの実施

中間層へのアプローチを目的に

- ・入学前プログラム(目標設定型)における実施対象者の拡大

特定入試枠・附属校生に限らない実施を目指す

- ・ピア・サポーターの育成にさらに注力

仲間同士の支えあう力を再養成

他大学のピア・サポーターとの合同合宿を実施、

ピア自身で自分たちの課題を考え、研修を立案・運営するプロセス重視型の新しい研修の形に移行

- ・支援Co同士で研修を実施

外部アドバイザーによる高等教育の傾向・情勢の研修や事例検討に加え、支援Coの専門性が異なるため、さらなる高度化を図る

まとめ:SSPにおける課題の変遷



何かご質問等あれば…

📌 ここからは“なんでも聞いていい時間”に…

素朴な疑問也大歓迎です！

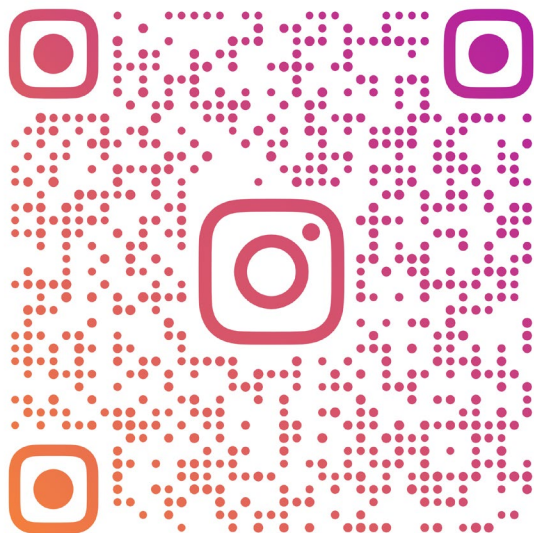
「ここ、よくわからなかった」などありましたらお気軽に ✨



インスタぜひフォローいただけると有難いです

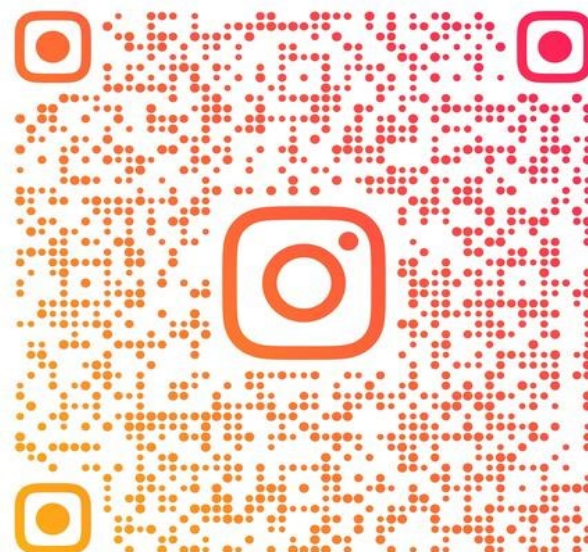
大学生活のコツ、各キャンパスのおすすめ情報などを発信しています

SSP公式アカウント



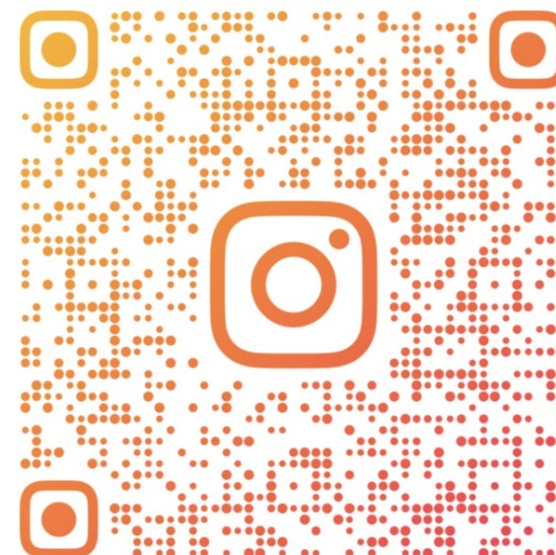
RITSUMEIKAN_SSP

OICピアのアカウント



@RITSUMEIKAN_SSP_OIC

BKCピアのアカウント



**@RITSUMEIKAN_SSP_BK
C**



個人ワーク 学習支援を行う上での課題

- 所属大学で学習支援に関わる取組やプログラムを提供する上で、どのような課題がありますか。
- 課題に対して、どのような対策をしていますか？
 - ・ 属人的な支援になっていないか
 - ・ 入口が複数あるか、分かりやすいか
 - ・ 情報共有・連携の仕組みがあるか
 - ・ 特定の学生層に届いていない部分がないか

学習支援を行う上での課題と対策

グループワーク 学習支援を行う上での課題と対策の共有

- 自身が挙げた課題と対策について、共有してください。
- 共有後に
 - ・グループメンバーの抱える課題の共通点、相違点
 - ・自身の課題への対策のヒント

ふりかえり

■組織的な学習支援に向けて

- ・ 取り組んでみたいこと
個人レベル、組織レベル
- ・ 継続して実施していきたいこと

到達目標

1. 高等教育における学習支援の定義とその必要性を、自身の言葉で説明できる。
2. 所属大学における学習支援の体制・取り組み・課題の現状を説明できる。
3. 所属大学の学習支援における組織的な課題と特徴を整理し、言語化できる。
4. 意見交換や活動を通して、参加者同士が学び合う雰囲気づくりに貢献できる。

参考文献

- 愛媛大学学習支援
https://www.ehime-u.ac.jp/campus_life/learning-support/
- 中央教育審議会（2018）「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」概要
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2018/12/17/1411360_7_1.pdf
- 日本学生支援機構（2024）『令和4年度学生生活調査結果』
https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/__icsFiles/afieldfile/2024/03/25/data22_all.pdf
- 日本経済団体連合会（2022）「採用と大学改革への期待に関するアンケート結果」
https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/004_kekka.pdf
- 日本私立大学連盟（2018）『私立大学学生生活白書2018』
- 日本私立大学連盟（2022）「第16回学生生活実態調査集計報告書」
- 文部科学省（2024）「大学における教育内容等の改革状況について（令和4年度）」
https://www.mext.go.jp/content/20241011-mxt_daigakuc01-000038093_1.pdf
- ベネッセ教育総合研究所（2022）『第4回 大学生の学習・生活実態調査報告書 データ集 [2021年]』
<https://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=5772>